

知恵はどこにあるのか

ヨブ記 28章 1-28節

はじめに

月の第四週に私が説教をする時には、旧約聖書の「ヨブ記」から説教をすることにしています。今日は28章から学びたいと思いますが、28章からヨブ記の後半部分に入ります。前半部分の27章までは、ヨブと三人の友人たちとの討論が中心でした。後半部分の28章からは、四人目の友人エリフとヨブの討論、そして神様とヨブの討論が中心となります。

今日学ぶ28章は、ヨブ記の後半部分の序論にあたります。28章のテーマは、「知恵」です。12節には、「**しかし知恵はどこで見つかるのか。悟りがある場所はどこか**」とあり、20節にも、「**では、知恵はどこから来るのか。悟りがある場所はどこか**」とあります。私たち人間は、「知恵」をどこで学び、どこで身に着けるのかがテーマとなっています。

ここでの「知恵」とは、単なる学力や知識ではありません。「知恵」とは、人生を生き抜く力と言ってもよいかもしれません。人はなぜ生きるのか、なぜ苦しみや悲しみがあるのか、なぜ悪者が栄え、正しい者が虐げられるのか、人は死んだらどうなるのか、など人生の根本的な問いに答える力と言ってもよいかもしれません。

1. 人間の高い技術と欲深さ

1-11節には、人間の技術の高さと欲深さについて書かれています。3-4節には、こうあります。「**人は闇の果てに、その極みにまで行って、暗闇と暗黒にある鉱石を探し出す。彼は、人里離れたところで縦抗を掘り進み、行き交う人に忘れられ、人々から離れたところで、ぶら下がって揺れる**」。

人間は、人里離れた山の中で、地下深くまで土を掘り、暗闇の中で鉱石を探し出そうとします。そこには、金や銀、鉄や銅、サファイヤなどの宝石があるからです。人間は、貴金属や高価な宝石を手に入れるために、時間をかけ、何度も失敗を繰り返す、時には、命の危険に晒されながら高い技術を磨いていきます。

このような高い技術は、動物にはなく、人間にしかありません。7-8節にはこうあります。「**その通り道は猛禽も知らず、隼の目もこれを狙ったことがない。誇り高き獣たちもこれを踏まず、たける獅子も通ったことがない**」。どんなに狂暴な動物も、人間の高い技術にはかないません。

このような高い技術は、神様のかたちに造られた人間だけのものです。神様は人間を造られた時、こう言われました。「**さあ、人をわれわれのかたちとして、われわれの似姿に造ろう。こうして彼らが、海の魚、空の鳥、地のすべてのもの、地の上を這うすべてのものを支配するようにしよう**」(創世記 1:26)。人間は、神様のかたちに造られ、神様に代わってこの地上を治める使命

を与えられました。そしてこの地上の資源を用いて、あらゆる技術を磨いて、様々な文化を発展させてきたのです。

現代においては、人間の技術はさらに進歩しました。人間は飛行機を造り出し、あらゆる国に行き来することができるようになりました。また飛行機だけでなく、ロケットも造り出し、人間は宇宙にまで行けるようになりました。また医療は発達してあらゆる病気を治せるようになりました。またインターネットを通じてあらゆる人と交流し、多くの情報を瞬時に手に入れることができるようになりました。日本や世界には巨大な高層ビルが建ち並び、それらは人間の技術の高さを象徴しています。

しかし人間は、それらの高い技術で何を手に入れようとしているのでしょうか。貴金属や宝石のような高価なものなのでしょうか。多くのお金でしょうか。地位や名誉でしょうか。それとも幸せな家庭でしょうか。人生の成功でしょうか。

2. 知恵の価値

12節にはこうあります。「**しかし知恵はどこで見つかるのか。悟りがある場所はどこか**」。人間は高い技術を磨いて、あらゆるものを手に入れていきます。しかし「知恵」はどうでしょうか。人間は、高い技術を磨いて、多くのお金や地位や名誉や幸せな家庭や人生の成功を手に入れることができるかもしれませんが。しかし、それらの高い技術で、人生を生き抜く力である「知恵」を手に入れることができたでしょうか。

人はなぜ生きるのか、なぜ人生には苦しみや悲しみがあるのか、なぜ悪者が栄え、正しい者が虐げられるのか、人は死んだらどうなるのか、そのような人生の根本的な問いの答えを、私たち人間は手に入れることができたでしょうか。もしかしたら私たち人間は、お金や地位や名誉や幸せな家庭や人生の成功を手に入れることに必死になって、人生の根本的な問いに答える「知恵」を手に入れることを軽んじてきたのかもしれませんが。

人生が順風満帆な時は、そのような「知恵」は必要ないかもしれません。しかしどんなに真面目に、一生懸命に生きていても、病気になることがあります。愛する人を失うこともあります。突然の事故や事件、災害に巻き込まれることもあります。また新型コロナウイルスのように、誰も予想しなかった世界中を巻き込む感染症によって、健康や仕事やあらゆるものが奪われることもあります。そのような時に、私たちの力となり支えとなるものが、「知恵」なのではないでしょうか。

では私たちは、どうしたら「知恵」を手に入れることができるのでしょうか。13-14節にはこうあります。「**人にはその価値が分からない。それは生ける者の地では見つからない。深淵は言う。『私の中にはそれはない。』海は言う。『私のところにはない』**」。「知恵」は、この地上のどこに行っても見つけることができないうのです。どんな高い技術でも、どんなに高い学費でも手に入れることができないうのです。

さらに 15-19 節にはこうあります。「**それは純金をもってしても得られない。銀を量ってその代価とすることもできない。オフィルの金によっても値踏みできない。高価な縞(しま)めのうやサファ**

イヤによっても、金も玻璃(はり)もこれと並ぶことができず、純金の器とも取り替えられない。珊瑚(さんご)や水晶は言うに及ばず、知恵の価値は真珠にもまさる。クシュのトバースもこれと並ぶことができず、純金でもその値踏みをする事ができない。「知恵」は、金や銀などのどんな高価な物によっても、買うことはできないと言うのです。高い技術によって仕事をして、多くの収入を得ても、「知恵」を手に入れることはできないのです。知恵は、高い技術によっても、高価な物によっても、決して手に入れることはできないのです。18 節に、「知恵の価値は真珠にもまさる」とあるように、「知恵」はどんな高価な物よりも価値があるものなのです。

3. 知恵は神のうちに

では、「知恵」はどのようにして手に入れることができるのでしょうか。20 節には再び、「では、知恵はどこから来るのか。悟りのある場所はどこか」とあります。「知恵」は、この地上のどこを探しても見つけることはできません。それなら「知恵」は、どこから来るのでしょうか。21 節に「それはすべての生き物に隠され、空の鳥にも隠れている」とあるように、人間や動物には「知恵」は隠されています。では死んだら分かるのかということ、そうでもありません。22 節には「滅びの淵も、死も言う。『そのうわさは、この耳で聞いたことがある』」とありますから、たとえ死んだとしてもはっきり分かるわけではありません。

ではどうしたら「知恵」を手に入れることができるのでしょうか。その答えは 23-24 節にあります。「神は知恵の道をご存じであり、神こそ、それが場所を知っておられる。それは、神が地の隅々までを見渡し、天の下をことごとく見ておられるからだ」。神様だけが「知恵の道」を知っておられます。神様だけが「知恵」をどこで手に入れることができるかを知っておられません。なぜなら神様こそ、全知全能であり、全世界と全人類を造られた創造者であるからです。

「知恵」は、神様だけが知っておられます。「知恵」はどんな高い技術や学力や財産によっても、手に入れることはできません。「知恵」は、神様と出会わなければ手に入れることはできないのです。

神様は、全世界を隅々まで見渡し、「知恵」について、見積り、確かめ、調べ上げられた結果、一つの結論を出されました。それが 28 節にあります。「こうして、神は人間に仰せられた。『見よ。主を恐れること、これが知恵であり、悪から遠ざかること、これが悟りである』と」。

「知恵」は、悪から遠ざかり、主なる神様を恐れることによって、手に入れることができるのです。「知恵」は、悪から遠ざかり、神様との交わりによって、得られるものなのです。

私たち人間が、「知恵」を持つためには、主なる神様との交わりを回復しなければなりません。私たち人間は、アダムとエバが禁断の木の実を食べた時から、神様との交わりを失い、罪を持っています。そのため、私たちが神様と交わりを持ちたいと願っても、私たちの罪がそれを邪魔しています。私たちの罪の問題を解決しなければ、私たちは神様と交わり、「知恵」を持つことはできないのです。

私たちの罪の問題を解決する唯一の道は、神のひとり子イエス様を信じることです。私たちの罪のために十字架に架かり復活されたイエス様に信頼し、寄り頼むことです。その時に

こそ私たちは、神様との交わりを回復し、「知恵」を持つ道が開かれるのです。

コロサイ 2：3 には、このようにあります。「**このキリストのうちに、知恵と知識の宝がすべて隠されています**」。イエス様の内にこそ、「知恵」の道があるのです。私たちはイエス様を信じる時、「知恵」の道が開かれていくのです。「知恵」は、どんな高価な物でも決して買うことはできません。「知恵」はどんな高価な物よりも価値があるからです。「知恵」は、神のひとり子イエス様の尊い命でしか買うことができないのです。イエス様は、御自身の尊い命を贖いの代価としてささげ、私たちと神様との交わりを回復してくださいました。イエス様の尊い命こそ、「知恵」を買うことができる唯一のものです。

私たちには、高い技術も、高価な物も持っていないかもしれません。しかし、イエス様への信仰さえあれば、「知恵」を手に入れることができるのです。

イエス様を信じ、神様との交わりを回復した私たちは、具体的にどのように「知恵」を与えられ、深められていくのでしょうか。Ⅱテモテ 3：15 には、こうあります。「**聖書はあなたに知恵を与えて、キリスト・イエスに対する信仰による救いを受けさせることができます。聖書はすべて神の靈感によるもので、教えと戒めと矯正と義の訓練のために有益です。神の人がすべての良い働きにふさわしく、十分に整えられた者となるためです**」。神様の言葉である聖書こそ、私たちに「知恵」を与えて、神様を恐れ、悪から遠ざかる道を教え、「知恵」を深めてくれるものなのです。

おわりに

私たちは今、イエス様への信仰が与えられ、神様との交わりを回復し、聖書と向き合っています。そして神様を恐れ、悪から遠ざかる「知恵」の道を学んでいます。そのことを通して、人生の根本的な問いに答える力を、また逆境の時に私たちを支える力を身にかけようとしています。

それらは、どんなに高い技術は学力によっても、どんなに多くの財産を持っていても、手に入れることができないものです。それらは、神様の恵みによって与えられるものです。永遠の昔より私たちを選び、私たちに信仰を与えてくださった神様の恵みによるものです。この「知恵」は、誰でも手に入れることができるものではありません。私たちは、この「知恵の道」に、恵みによって導かれたことを感謝したいと思います。

そうであるならば私たちは、高い技術を磨くことも、多くのお金や地位や名誉や幸せな家庭や人生の成功を手にするのも大切かもしれませんが、何よりも「知恵」を深めることが大切なのではないでしょうか。「聖書」から「知恵」を学び、人生の根本的な問いに答えながら、神様を恐れ、悪から遠ざかりつつ、仕事をし、家庭を形成し、文化の発展に貢献していくことが私たちのあるべき姿ではないでしょうか。それこそ神の国に生きる私たちの生き方ではないでしょうか。

天におられる私たちの父なる神様。

私たちの人生には、予期せぬ出来事が時折起こります。その時に私たちは、「知恵」のなさを痛感します。またその時にこそ、「知恵」を軽んじ、自己実現だけを追い求めてきた自分の人生を反省します。

私たちは、真珠よりも価値のある「知恵」の道に神様の恵みによって導かれました。どうか神の言葉である聖書から、「知恵」を学び、神様を恐れ、悪から遠ざかる「知恵」を深めさせてください。人生の根本的な問いに答える力、逆境の時に支えとなる力を身に着けることができますように。

この祈りを私たちの救い主イエス・キリストの御名によってお祈りします。アーメン。